2015 年 12 月 15 日

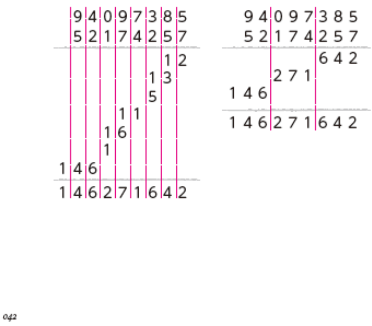
『数的センスを磨く超速算術』の訂正とお詫び（初版第 1～3 刷）

2014 年 3 月 15 日発行の『数的センスを磨く超速算術』（第 1～3 刷）の本文中に誤りがございました。正しくは以下のとおりです（赤い罫線囲み部分）。

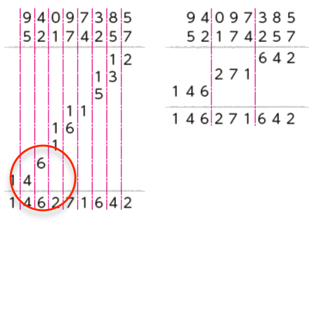
読者の皆様、並びに、関係各位に、謹んでお詫び申し上げます。

◎42ページ 下段

（誤）

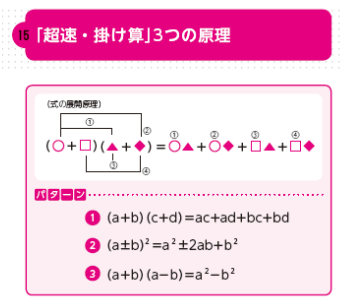


（正）

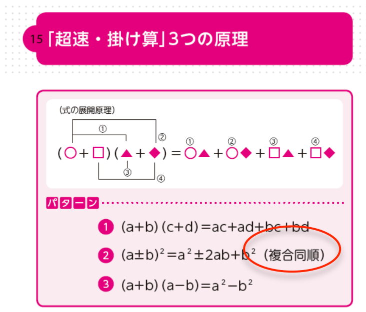


◎46ページ 上段

（誤）

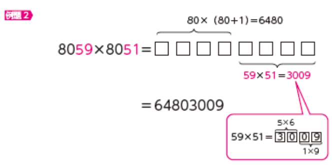


（正）

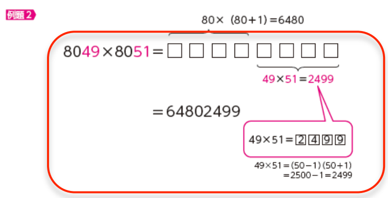


◎60ページ 下段

（誤）



（正）



◎79ページ 上段

（誤）

次の例は、余りが９以上になるケースです。

(iii) 7+8+9=24 を９で割って商は２、余りは６

789÷9 ⇨ 8 7 余り 7+8+9

(ii) 7+8=15 に (iii) の２を足して17

(i) 百の位の７に (ii) の１を足して８

よって、商は87、余りは６

（正）

次の例は、余りが９以上になるケースです。

(iii) 7+8+9=24 を９で割って商は２、余りは６

789÷9 ⇨ 8 7 余り 6

(ii) 7+8=15 に (iii) の２を足して17

(i) 百の位の７に (ii) の１を足して８

よって、商は87、余りは６

◎190ページ 上段

（誤）

コラム 開平法は「1番絞り」の原理だった！

ここで紹介した開平法の原理は次の展開公式①によります。

$(a+b+c+d+\cdots\cdots)^2$ …… ①

$=a^2+b(2a+b)+c\{2(a+b)+c\}+d\{2(a+b+c)+d\}+\cdots$

（正）

コラム 開平法は「1番絞り」の原理だった！

ここで紹介した開平法の原理は次の展開公式①によります。

$(a+b+c+d+\cdots\cdots)^2$

$=a^2+b(2a+b)+c\{2(a+b)+c\}+d\{2(a+b+c)+d\}+\cdots$

…… ①

◎201ページ 下段

（誤）

４桁の２進数は 0000 ～ 1111 の 16 通りであり、これを 10 進数に直すと０～ 15 です。したがって、４桁の２進数を 10 進数に直して１を足せば、コインを投げた結果は、①～⑯の数値を表わします。

（例）裏、裏、表、裏 → 1101 $_{(2)}$ → 13 $_{(10)}$ → 13+1=14

なお、この方法はピッタリ 16 人でないとダメかというとそんなことはありません。15 人の場合、コインで⑯が出たら 15 以下が出るまでやり直せばいいのです。また、32 人の場合はコインを５枚投げることになります。２進数も、こうやって使うと身近に感じられるでしょう。

PART_7 イザという時、あなたを救うベンリ計算術

201

（正）

４桁の２進数は 0000 ～ 1111 の 16 通りであり、これを 10 進数に直すと０～ 15 です。したがって、４桁の２進数を 10 進数に直して１を足せば、コインを投げた結果は、①～⑯の数値を表わします。

（例）裏、裏、表、裏 → 1101 $_{(2)}$ → 13 $_{(10)}$ → 13+1=14

なお、この方法はピッタリ 16 人でないとダメかというとそんなことはありません。15 人の場合、コインで⑯が出たら 15 以下が出るまでやり直せばいいのです。また、32 人の場合はコインを５枚投げることになります。２進数も、こうやって使うと身近に感じられるでしょう。

(注) ２進数を 10 進数に素早く換算する方法は 59 節を参照してください。

PART_7 イザという時、あなたを救うベンリ計算術

201